



平成29年6月20日

魔法の言葉

6月12日(月)から「あいさつ運動」を行っています。児童会(生活ボランティア委員会)の企画です。上学年児童が交代で朝、玄関に立ち、登校してきた児童に挨拶をします。15日(木)には、中学生も参加してくれました。また、5月より、「あいさつ名人」の取り組みを行っています。教員(生活向上推進部会)の発案です。全教職員がそれぞれの「あいさつ名人カード」



〈中学生と共にあいさつ運動〉

を持っています。私のカードには、「あいさつは、魔法の言葉。相手も自分も幸せになります」と書かれています。目当てである「㊦かるく・㊧つでも・㊨きに・㊩ないで」の挨拶ができている児童にそのカードを渡します。カードをもらえた児童は「あいさつ名人」です。5枚もらえた児童は「あいさつ大名人」、10枚で「あいさつウルトラ大名人」となります。これらの活動の効果もあり、校内では、明るい「おはようございます」、元気な「こんにちは」がたくさん聞かれます。「校長先生、おはようございます」と丁寧に頭を下げてあいさつしてくれる児童もたくさんいます。おかげで気持ちよく学校生活を送ることができます。

毎日3時過ぎ、校長室で執務をしているとき、背中から聞こえるとても元気な声に振り返ります。「校長先生、さようなら」校長室の窓越しに、下校していく児童が挨拶をしてくれます。中には窓を叩いて挨拶してくれる児童もいます。少し回り道になっても、わざわざ窓際まで近寄ってきてくれる児童もいます。この原稿を書いている間も「校長先生、さようなら」が幾度となく聞こえます。そのたびに振り向き、手を振りながら、私も「さようなら」と言います。すると、再び「さようなら」の挨拶が返ってきます。子供たちも私も自然と笑顔になります。とても幸せな時間です。やはり、挨拶は魔法の言葉です。